

米原歴史街道

米原市の歴史・文化財を歩く 136

新・市指定文化財「蒸気機関車避難壕」

―県内での戦争遺跡指定第一号―

鉄道のまちらしい文化財

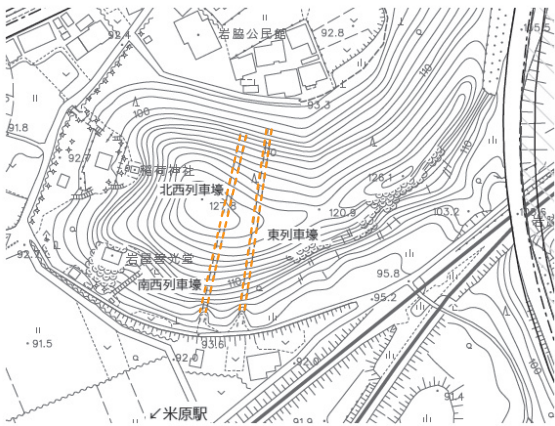
岩脇にある蒸気機関車避難壕は、太平洋戦争末期に米原駅の機関車を退避させる目的で造成されたものです。米原市教育委員会では、七月二七日付で、この避難壕を米原市の文化財(史跡)に指定しました。今後、地域と協力して保存と活用を図っていきます。

米原駅は東海道本線と北陸本線の結節駅であり、戦争中には兵員、兵器、弾薬などを輸送する重要な動脈でした。このため太平洋戦争末期になると、連合軍の攻撃目標となり、実際に艦載機による機銃掃射があり、米原駅の旧四、五番ホームには機銃による貫通痕も残されていました。

こうした連合軍の空襲から機関車を守り避けるために計画されたのが、地下に機関車を退避させる蒸気機関車避難壕でした。その候補として米原駅の北方に位置する岩脇山が選ばれ、南側山麓に二カ所の退避壕が掘削されました。壕を掘りながら、掘り出した碎石で避難壕への導線路を敷設する作

業が進められましたが、完成途中で敗戦となりました。

東側の壕は最大幅約三メートル、最大高約五メートルで、延長一一〇メートルを測り、山の北側に貫通しています。西側の壕は最大幅・最大高ともに約四メートルで、南と北から掘り進められたようで、南側が五三メートル、北側が二三メートルを測ります。



▲米原列車場位置関係概略図(S=1/25000)

手作りの資料館も整備

戦後は長くごみ捨て場となり、なんとか開口部が確認できるだけでしたが、二〇〇八年に「岩脇まちづくり委員会」がごみを除去され、内部を見学できるように整備されました。また、今回の指定にあたっては、滋賀県立大学の学生に、それぞれの避難壕の詳細な平面図と断面図を作成していただき、現状を正確に把握することができました。この図面は、これからの保存・活用 の基礎資料となります。

近年、全国各地で戦争に関わる施設を戦争遺跡、軍事遺跡として保存、平和教育に活用しようとする活動が盛んになっています。岩脇まちづくり委員会では、避難壕の整備のようすや出土品などを紹介した手作りの資料館を作り、すでに多くの見学者を受け入れられています。周辺には、案内看板や手作りのカフェ、新幹線からも見える、岩脇山の岩盤に張り付くように建てられた珍しい懸造りの岩屋善光堂、稲荷神社、岩脇山遊歩道などの見どころがあります。

蒸気機関車避難壕は、滋賀県内で初めての戦争遺跡の指定文化財になります。戦闘機を空襲から守るために造成された掩体壕などは、高知県南国市、大分県宇佐

市、福岡県行橋市で市指定文化財として保存されています。

一方で、こうした軍事遺跡は何ら文化財の扱いもなく、壊されているのも現実です。鉄道のまち米原で、全国でも他に例のない蒸気機関車避難壕を、戦争を伝える貴重な歴史資料として保存・活用し、多くの人に訪れていただきたいと思います。(歴史文化財保護課)

※なお、今回、避難壕とともに「旧田中邸新座敷棟関連資料」(長岡/個人蔵)を市の文化財(歴史資料)に指定しました。これは、前回の「歴史街道」で紹介した遠州流茶室に伴う図面と書簡計一〇点です。米原市の文化財は、国指定(選択含む)二四件、国登録五件、県指定(選択含む)三〇件、市指定九三件の計一五二件となりました。



▲東側の避難壕入口